

令和 6 年度 事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

学校法人 谷岡学園
〈大阪商業大学高等学校〉

学校法人谷岡学園 令和6年度 事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

1 法人の概要

建学の理念

学校法人谷岡学園は「世に役立つ人物の養成」を建学の理念とし、それを(1)思いやりと礼節(2)基礎的実学(3)柔軟な思考力(4)楽しい生き方、と解釈しています。すなわち、まず人物的に優れ、社会に必要な知識・技能・資格を備え、かつそれを活用し得る広い視野・適応力・創造性を持つ、そして、何事にもプラス思考で取り組み、楽しい充実した生活を送ることのできる人材の養成を使命としています。

1 設置する学校・学部・学科等

(1)大阪商業大学

大学院	地域政策学研究科 地域経済政策専攻、経営革新専攻
経済学部	経済学科
総合経営学部	経営学科、商学科、公共経営学科(平成30年度より募集停止)
公共学部	公共学科

(2)神戸芸術工科大学

大学院	芸術工学研究科 芸術工学専攻、総合アート&デザイン専攻
芸術工学部	建築・環境デザイン学科、生産・工芸デザイン学科 ビジュアルデザイン学科、メディア芸術学科

(令和6年度より募集停止)

芸術工学部	環境デザイン学科、プロダクト・インテリアデザイン学科 ファッションデザイン学科、ビジュアルデザイン学科 まんが表現学科、映像表現学科、アート・クラフト学科
-------	---

(平成27年度より募集停止)

先端芸術学部	まんが表現学科、映像表現学科、クラフト・美術学科
--------	--------------------------

(3)大阪商業大学高等学校

全日制課程普通科

(4)大阪商業大学堺高等学校

全日制課程普通科

(5)大阪緑涼高等学校

全日制課程普通科
全日制課程調理製菓科

(6)大阪商業大学附属幼稚園

2 学部・学科等の入学定員、学生数の状況(令和6年5月1日現在)

(1)大阪商業大学

※1…平成30年度より募集停止

学部等	学科〔専攻〕		入学定員	収容定員	入学者数	学生数
大学院 地域政策学研究科	地域経済政策専攻	博士前期課程	10	20	4	7
		博士後期課程	3	9	1	2
	経営革新専攻	修士課程	10	20	7	10
	計		23	49	12	19
経済学部	経済学科		300	1,200	327	1,312
	計		300	1,200	327	1,312
総合経営学部	経営学科		400	1,600	475	1,791
	商学科		150	600	179	714
	公共経営学科※1		—	—	—	1
	計		550	2,200	654	2,506
公共学部	公共学科		250	1,000	248	1,034
	計		250	1,000	248	1,034
合 計			1,123	4,449	1,241	4,871

(2)神戸芸術工科大学

※1…令和6年度より募集停止 ※2…平成27年度より募集停止

学部等	学科〔専攻〕		入学定員	収容定員	入学者数	学生数
大学院 芸術工学研究科	芸術工学専攻	博士後期課程	6	18	2	6
	総合アート&デザイン専攻	修士課程	27	54	42	86
	計		33	72	44	92
芸術工学部	建築・環境デザイン学科		100	400	47	47
	生産・工芸デザイン学科		100	400	104	104
	ビジュアルデザイン学科		100	400	105	105
	メディア芸術学科		100	400	160	160
	環境デザイン学科※1		—	—	—	220
	プロダクト・インテリアデザイン学科※1		—	—	—	168
	ファッションデザイン学科※1		—	—	—	85
	ビジュアルデザイン学科※1		—	—	—	264
	まんが表現学科※1		—	—	—	183
	映像表現学科※1		—	—	—	205
	アート・クラフト学科※1		—	—	—	141
	計		400	1,600	416	1,682
先端芸術学部	まんが表現学科※2		—	—	—	—
	映像表現学科※2		—	—	—	—
	クラフト・美術学科※2		—	—	—	—
	計		—	—	—	—
合 計			433	1,672	460	1,774

(3)大阪商業大学高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒数
全日制課程 普通科	325	362	1,151

(4)大阪商業大学堺高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒数
全日制課程 普通科	375	331	921

(5)大阪緑涼高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒数
全日制課程 普通科	180	124	407
全日制課程 調理製菓科	60	62	171
合 計	240	186	578

(6)大阪商業大学附属幼稚園

保育年限	募集定員	収容定員	入園者数	園児数
3歳児(3年)、4歳児(2年)、5歳児(1年)	50	170	39	122

3 役員・教職員の人数

(1) 役員(令和6年5月1日現在)

理 事	理事長	谷岡一郎
	理 事	谷岡辰郎
	理 事	松村秀一
	理 事	佐藤賢治
	理 事	好永保宣
	理 事	加藤幸江
	理 事	片山隆男
	理 事	板倉龍介
	監 事	常岡裕之
	監 事	西村義明
	監 事	岡山栄雄

(2) 評議員(令和6年5月1日現在) 18名

的場啓一	西本真治	高岸暎治	神戸直樹	谷岡一郎	片山隆男
谷岡辰郎	板倉龍介	好永保宣	岩田康宏	常岡裕之	佐藤賢治
寺田全輝	谷岡瑞子	渡辺平太郎	安藏伸治	小守良昌	加藤幸江

(3) 責任限定契約について

寄附行為第19条に基づき、令和6年5月1日現在、次のとおり責任限定契約を締結しています。

○対象役員氏名

(非業務執行理事) 加藤幸江 板倉龍介
(監 事) 常岡裕之 岡山栄雄 西村義明

○契約内容の概要

当該役員が本学園の役員として遂行した職務に関して、私立学校法第44条の2第1項に基づく損害賠償責任を負う場合、当該役員がその職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、私立学校法その他の法令が定める最低責任限度額をもって、当該役員の本学園に対する損害賠償責任の額の上限とし、当該上限を超える部分については、責任を負わないものとする。

○契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

上記契約内容のとおり。

(4) 役員賠償責任保険契約について

令和6年1月27日理事会決議に基づき、令和6年4月1日付で役員賠償責任保険に加入しました。

○被保険者

理事・監事・評議員

○契約内容の概要

保 険 名 称: 私大協役員賠償責任保険制度

団体契約者: 日本私立大学協会

補 償 内 容: (個人に関する補償)

- ・法律上の損害賠償金
- ・争訟費用
- ・損害賠償請求対応費用
- ・公的調査等対応費用
- ・刑事手続対応費用
- ・財産又は地位の保全手続等対応費用
- ・信頼回復広告費用
- (法人に関する補償)

- ・法人内調査費用
- ・第三者委員会設置・活動費用

支払限度額:1 億円(免責金額 0 円)

契 約 期 間:令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 4 月 1 日

○支払対象とならない主な場合

法律違反に起因する対象事由等。

(5)教職員(令和 6 年 5 月 1 日現在)

学校名	教員・研究員	職 員	合 計
大阪商業大学	196(89)	161(20)	357(109)
神戸芸術工科大学	197(106)	73(9)	270(115)
大阪商業大学高等学校	124(39)	13(1)	137(40)
大阪商業大学堺高等学校	101(30)	16(2)	117(32)
大阪緑涼高等学校	98(45)	14(2)	112(47)
大阪商業大学附属幼稚園	21(5)	2(1)	23(6)
合 計	737(314)	279(35)	1,016(349)

※()は非常勤教職員(内数)、法人職員は大阪商業大学に含む。(役員関係及び兼務者は除く。)

2 事業の概要

大阪商業大学高等学校

(1) 学校基本領域

建学の理念「世に役立つ人物の養成」の下、入学した生徒が豊かな社会生活を送るための学力や基本的な生活習慣を身に付け、人間的な成長を実感できる学校を目指し、「生徒と丁寧に接し、本気で人を育てる」を目標として、教育実践を行いました。

スクールミッション、そして4つのコースのスクールポリシーを基に、各教育活動を行いました。グローバル商大コースでは、進学意欲が高い生徒に対する援助として放課後学習プログラム「まな部」を、デザイン美術コースと共同で実施しました。参加生徒は、3年英語6名、国語5名、2年国語1名、英語は希望者がいませんでした。自学自習を中心に行っている実施方法、目標設定など再考する必要も感じられます。また、昨年度よりスタートした「日商簿記検定2級講座」を夏季休暇中および冬季休暇中に開講しました。本年度は本校で実施するのではなく、協力を得ている専門学校校舎での授業となりました。7名の申し込みがあり、全員最後まで受講することができました。最終的に合格者は0名という厳しい結果となりました。ただ、今後も生徒たちが積極的に各種検定に挑戦できるような環境を作っていきたいと考えています。グローバル商大コース全体で近畿大学9名、大阪経済大学11名、摂南大学7名、大阪電気通信大学9名などの合格者を出すことができました。

文理進学コースでは、BSA (Bunri Seeking Activity) が2年目を迎え、1年生と2年生が合同で活動することができました。生徒たちは興味・関心を示し、次年度に繋がっていく活動となりました。入試の合格実績として、国公立大学の合格が7名（大阪教育大学2名、滋賀大学1名、室蘭工業大学1名、高知工科大学1名、釧路公立大学1名、三条市立大学1名）でした。また難関私立大学において、同志社大学1名、立命館大学1名、関西大学18名、近畿大学56名、龍谷大学12名の合格となりました。

デザイン美術コースについては、デッサン力の充実と基礎学力対策というコンセプトに従い、放課後のデッサン授業においてデッサン専門の先生による指導を続けています。その成果があり、合格実績として国公立大学2名（鳴門教育大学1名、尾道市立大学1名）、近畿大学9名の合格となりました。ほぼ全員が芸術・美術系大学への進学を果たす結果となりましたが、神戸芸術工科大学への進学者は0名であり、今後系列大学との連携をさらに強化していく必要があります。

スポーツ専修コースでは、学力が高く、学習意欲がある生徒を対象とした国語・英語の「抽出授業」を始めました。12名の生徒が参加し、意欲的に学習に取り組むことができました。3学期に行われた全商簿記実務検定3級で受験者87名、合格者64名（74%）で、昨年度（37%）より大幅に合格率が高まりました。

コースごとに行き先を設定した修学旅行が2年目を迎えました。体調不良や怪我、プログラム中のトラブルなどもありましたが、各コース魅力あるプログラムが行われ、概ね好評であったと思われます。実施日程が細分化されることにより、授業日数の確保が難しく、また引率教員数の不足や教員業務の過重負担が見られましたので、改善が必要です。

(2) 学習指導領域

1時間1時間の授業を大切にする姿勢を教員・生徒ともに養い、さらに自ら考える力を養うための

授業を進めていくことを目標に取り組みました。各学年で教室巡回などを通じて授業への集中を促してきましたが、学期が進むごとに、モチベーションが下がっていることは否めない事実です。また、Chromebook を用いた授業が 1 年生、2 年生で可能となり、有効利用されています。まだ改善すべき点があり ICT 教育推進委員会を中心に改善に繋がる情報提供が適宜行われました。教務部から、考査ごとの平均点などのデータを全教員、全教科へ提供するなど情報公開・共有を行っており、個々の科目担当者や学年団単位だけではなく、教科全体で常に意識し、対応を進めています。

文理進学コースでは、進研記述模試で得点率 50%以上の生徒が、受験者数の 50%以上、進研マーク模試で得点率 50%以上の生徒が、受験者数の 60%以上を目標としてきましたが、国語、英語でその目標を達成することができませんでした。

検定に対する取組みの結果は、次のとおりです。全商簿記実務検定 3 級 248 名（昨年比+20 名）、2 級 66 名（昨年比+12 名）、1 級原価計算 8 名（昨年比+3 名）、財務会計 8 名（昨年比+3 名）、実用英語技能検定（英検）3 級 74 名（昨年比+17 名）、準 2 級 42 名（昨年比+8 名）、2 級 14 名（昨年比-2 名）、ICT プロフィシエンシー検定（P 検）3 級 87 名（昨年比+36 名）、準 2 級 46 名（昨年比+16 名）、色彩検定 3 級 14 名（昨年比-2 名）、2 級 12 名（昨年比-4 名）が合格という結果になりました。全商簿記実務検定、ICT プロフィシエンシー検定（P 検）は各級においてほぼ昨年度の合格者数を上回ることができました。実用英語技能検定は受検数が減少している中で、昨年並みの合格者数を出すことができました。

導入しているスタディサプリの使用実績があまり芳しくないため、今後継続してスタディサプリの使用を継続するのを含め検討を行っていく必要があります。また学力テストもスタディサプりとリンクしていますので、学力テストの内容も含めて検討を行います。

(3) 生活指導領域

学校生活において、本校の理想とする「生徒像」を掲げ、特に制服の着こなしに重点を置きました。特に一部の女子生徒のスカート丈と男子生徒のワイシャツの裾だし、に対して全教員での徹底指導が必要な状況でもあります。全教員で取り組む生活指導を徹底し、登下校指導や昼休みの校内巡回などを行いました。目標値を設定しての遅刻指導に注力しました。遅刻数については目標を 4,500 人と定めましたが、本年度 5,359 人と目標を達成することはできませんでした。

八戸ノ里ドライビングスクール講師による交通安全指導講演、性教育、マナー教育などについては外部講師を招いての講演会を実施し、啓発活動を行いました。特に自転車における道路交通法の変更点について、生徒指導部より生徒に対して情報提供を行いました。

生徒自治会の役員が中心となって校内大会、体育祭、文化祭などの行事を企画、運営しました。2 回目の外部体育館での体育祭開催、そして数年ぶりに一般招待客を招いての文化祭など、生徒主体の学校行事を行うことができました。また、韓国高校生の本校への訪問時に、生徒自治会手作りの歓迎会を催し、成功裏に終えることができました。クラブ活動は、柔道部女子個人、団体がインターハイに出場し上位入賞を果たすことができました。またパワーリフティング同好会が 3 月の全国大会において、2 名が上位入賞を果たしました。その他軟式野球部が令和 6 年度春季近畿地区高等学校軟式野球大会大阪府予選で優勝、硬式野球部が夏の全国大会（第 106 回全国高等学校野球選手権大阪大会）にてベスト 4 に進出するなど、日頃の成果を発揮してくれました。しかし、グローバル商大コースを中心にクラブへの加入率が下がっており、生徒への働きかけなどの対応策を考える必要があります。

保健委員会を中心に配慮を要する生徒の情報共有機会を設けました。また、教員対象に AED、CPR、エピペン講習会を実施しました。

(4) 進路指導領域

計画的に進路指導を行い、適切な情報提供をすることで、進路に対する目的意識を形成するとともに学習への意欲を高めてきました。進路ガイダンスも予定通り行うことができました。

系列校との連携では、大阪商業大学については理事長・学長による特別講演、そして高大接続講座の模擬授業では、ただ講義を聞く形式から、ゼミ形式の参加型に変更など大阪商業大学広報入試課の協力を大いに得ることができました。昨年度よりも進学者数も増加しました。神戸芸術工科大学については、デザイン美術コースとの協力授業などを通じて連携を図っていますが、残念ながら進学者は0名という結果になりました。今後進学者を増やすために、デザイン美術コースだけでなく、グローバル商大コースへの働きかけも必要だと感じます。

進路目標の具体化のために、学期中は外部講師および本校教員の7・8限授業を行いました。また、グローバル商大コースなどでは“まな部”を、文理進学コースでは学期末特別授業を実施しました。大学入学共通テストの受験者は32名で、得点率60%以上が10名となりました。初めて導入された「情報Ⅰ」の本校平均は61.3点（自己採点ベース）でした。国公立大学に9名合格（文理進学コース7名、デザイン美術コース2名）、難関私立大学（8私大）・国公立大学のべ合格数95名など3か年の指導成果が表れました。デザイン美術コースからも難関私立大学に多数合格し、3年間、コース、担任、そして教科担当者からの働きかけでモチベーションを維持することができた結果であります。

進路集計として、4年制大学68.7%（大阪商業大学69人19.4%、他大学49.3%）、短期大学5.6%、専門学校14.6%、就職5.9%、その他5.0%という結果になりました。4年制大学への進学率は昨年度と比較してほぼ同じですが、大阪商業大学への進学者は微増しました。広報入試課の本校3学年担任対象の説明会を通じて、生徒への働きかけがあったことも要因の一つだと思われます。就職の中で自衛隊への入隊者が増えました。災害に対する救助活動などの社会貢献に対する関心が高くなった結果だと思えます。

(5) 入試・渉外領域

基盤とする東大阪市・八尾市・大阪市への広報活動を渉外担当者がきめ細やかに行い、学校やコースの特徴を浸透させることで、安定した入学者確保を目標としています。中学校へは担当者4名で5月より訪問を開始し、クラブでの実績、検定取得状況や転退学者などの生徒情報を可能な限り伝えることなどで信頼を得ています。新たに策定した文理進学コース特待生およびデザイン美術コース特待生については夏以降に中学校や受験生への周知を行いました。中学校の評定合計を進路相談の基準とすることは分かりやすく、好評を得ています。中学校との連携強化として実施している出前講座は積極的に受け入れ、8中学校13講座すべて引き受け実施しました（昨年度6中学校8講座）。学習塾に関しては、専従の担当者、嘱託教諭の計2名で対応しました。2024（令和6）年度は1,200か所（昨年度1,135か所）と精力的に訪問を行い、細やかな情報交換を行っています。また、オープンスクール、入試説明会、デッサン講習会4回実施、デザイン美術コース説明会、入試相談ウィークを予定通り実施しました。オープンスクール参加924組（昨年度860組）、入試説明会（入試相談ウィークを含みます）510組（昨年度505組）、デッサン講習会177組（昨年度219組）でした。昨年度と比較し、数値は伸びているものの、実際の出願に繋がらなかったことへの分析は必要です。

志願者数は専願311名、併願579名、計890名（昨年度、専願320名、併願652名、計972名）となり2年連続の減少となりました。専願出願者は微減で留まりましたが、併願出願者が73名減少し、特にグローバル商大コースにおいて女子の出願者が40名程度減少しました。ただ、専願では募集定員325名に対して、320名が出願し、専願者の比率が高い状態は続いています。志願者における専願率は34.9%（昨年度32.9%）男女比が専願男68：女32、併願男60：女40となり、昨年度より女

子の比率は減少しましたが、共学校として認知はされていると考えられます。

受験生がコロナ・インフルエンザにり患した場合の受験予備日を1日設け、対象者の2名が受験しました。また専願受験者が少なく募集定員を満たさないと予測されたため、文理進学コース及びデザイン美術コースを対象とした1.5次試験を同日実施しました。志願者数は文理進学コースのみ8名（専願4名、併願4名）でした。昨年度より導入している“miraicompass”を利用した受験者への合否発表および中学校への合否通知について、大きな問題はありませんでしたが、合否発表の時間（午前10時）については、中学校授業中の時間帯であることから、一考の必要性があります。

(6) 教員の研修・研究領域

夏期研修会では、「これからの社会を生き抜ける組織となるために」というタイトルで、社会の動向・組織に求められる要素・管理職の役割、それぞれの年代や役職に求められる期待などを学ぶ機会としました。また対話ワークで学校方針の理解を深める研修を行いました。

谷岡学園高等学校教員全体研修会において分掌ごとに分科会を行い、各校の取組みや意見交換などを行い、意義のある時間となりました。ミニ勉強会は、重要な内容を含んだ勉強会ですが、参加者が減少しました。放課後授業やクラブ活動、時間的な余裕がないなどの原因が考えられます。常勤講師1年目教員対象に年間10回の研修会を実施しました。公開授業は年1回期間（3週間）を設けて全員が公開対象として実施しました。公開に際して授業のこだわりを明示し、興味を持った授業を見学してもらうスタイルを取りました。特にICT機器を用いた授業の方法など参考になったなど肯定的意見もありましたが、生徒指導や授業準備のために見学に行けなかったという声も多く、見学をしやすい仕組みが必要であると思われます。また、公開授業の在り方について、多くの教員の意見を聞きながら、少しでも実りのあるものを創りあげる必要があると思われます。

グローバル商大コース委員会を中心に学校視察を複数校（福岡県、岐阜県、千葉県、および大阪府公立高校）実施し、今後の変革に向けて大いに参考になりました。外部の研修会として、日本私学教育研究所や私学マネジメント協会主催などの各種研修会に管理職および教員が参加しました。

(7) 経営領域

募集活動については、前述の様に本年度専願311名、併願579名、計890名となり2年連続の減少となりました。昨年度（専願320名、併願652名、計972名）と比較しますと82名の減少となりました。大阪府公立高校の2025（令和7）年度入試受験倍率平均が1.02倍で、受験倍率1倍を割っている学校も多数あります。併願戻り率は2025（令和7）年度入試では約7%でしたが、今後その数値もさらに低くなっていく可能性もあります。専願の出願者で定員数を確保する必要があります。教育活動の充実、成長を実感できる教育課程を現状に留まることなく変革を続けていくことの必要性を感じます。

8月と10月に実施したオープンスクールでは、参加者数が昨年度を大きく上回っているにも関わらず（2024（令和6）年度計924組、2023（令和5）年度計860組）、出願数の増加には繋がりませんでした。受験生の進路スケジュール（懇談会など）を考慮に入れ、入試説明会を含めた実施時期や実施内容の検討を行っていきます。指定強化クラブを中心とするアスリート推薦は、顧問のスカウティングなどの尽力によりスポーツ専修コースで専願102名の入学者を確保することができました。スポーツ専修コースの専願者の数値は、自ずと全受験者の専願者数に影響を与えるものであります。継続して重視していきたいと思えます。それに加え、進路実績で顕著な成果をあげている文理進学コースについて、受験者数、入学者数ともに目標値を大きく下回っているのが現状ですが、コース独自の渉外活動（リーフレット作成、塾訪問など）を積極的に行い、受験者の増加を目指します。

(8) その他の領域

1・2年生では1学期末・2学期末と年2回、クラスで三者懇談を実施しました。3年生は進路に関する懇談を6月をメインに行いました。PTA関連行事（総会・学年集会）も予定通りに実施、文化祭や外部体育館で行われた体育祭へ保護者に多数来場していただきました。保護者対象の授業公開も11月に実施、日頃の生徒たちの学習成果を見ていただくことができました。卒業式も多数の保護者、ご家族の方に来ていただきました。

さくら連絡網は効果的な利用ができています。仕事等で電話の繋がりにくい家庭に対してもメッセージを残すことができ、学校や学年から一斉に連絡やメッセージを送信できることで遅刻や欠席の連絡も含めて情報共有することに活用できました。保護者からのメッセージ機能充実の要望の声が多くあり、検討を行いたいと思います。

教職員の労務に関しては、以前に比べ退勤時間は早くなっていると感じられますが、クラブ指導、コース活動、特定の分掌において勤務時間が長くなっている場合があります。有給休暇取得奨励も含めて、労働時間短縮に繋がる体制を構築していくことが急務です。

衛生委員会は定期的に開催し、健康診断の結果を基に、産業医と相談し教職員へ校長・衛生委員会名で再受診勧告を実施しました。また生徒、教職員ともに快適に過ごすことのできる環境作りについても議題となり、意見交換を行うことができました。

学校評価委員会を3月に開催することができました。教職員、保護者、生徒、学識経験者、近隣の自治会長の出席のもと、活発な意見交換ができました。

資 金 収 支 内 訳 表
令和6年4月1日から
令和7年3月31日まで

収 入 の 部

(単位 円)

部 門 科 目	大阪商業大学高等学校
学生生徒等納付金収入	491,996,497
手数料収入	18,016,250
寄付金収入	1,545,200
補助金収入	637,956,333
国庫補助金収入	0
地方公共団体補助金収入	382,592,830
地方公共団体授業料軽減補助金収入	255,363,503
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	97,040
受取利息・配当金収入	197,241
雑収入	5,045,312
借入金等収入	0
計	1,154,853,873

支 出 の 部

部 門 科 目	大阪商業大学高等学校
人件費支出	899,101,200
教育研究経費支出	226,257,586
管理経費支出	36,375,166
借入金等利息支出	1,405,917
借入金等返済支出	173,342,000
施設関係支出	76,942,197
設備関係支出	11,497,282
計	1,424,921,348

事業活動収支内訳表

令和6年4月 1日から
令和7年3月31日まで

(単位:円)

部 門			大 阪 商 業 大 学
科 目			高 等 学 校
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	491,996,497
		手数料	18,016,250
		寄付金	1,545,200
		経常費等補助金	637,956,333
		付随事業収入	97,040
		雑収入	5,454,116
		教育活動収入計	1,155,065,436
	事業支出の活動部	人件費	955,768,319
		教育研究経費	324,766,962
		管理経費	50,268,708
		教育活動支出計	1,330,803,989
教育活動収支差額		△ 175,738,553	
教育活動外収支	事業収入の活動部	受取利息・配当金	197,241
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	197,241
	事業支出の活動部	借入金等利息	1,405,917
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	1,405,917
	教育活動外収支差額		△ 1,208,676
経常収支差額		△ 176,947,229	
特別収支	事業収入の活動部	資産売却差額	0
		その他の特別収入	501,350
		特別収入計	501,350
	事業支出の活動部	資産処分差額	413,216
		その他の特別支出	0
		特別支出計	413,216
	特別収支差額		88,134
基本金組入前当年度収支差額		△ 176,859,095	
基本金組入額合計		△ 266,152,441	
当年度収支差額		△ 443,011,536	
前年度繰越収支差額		△ 5,055,915,549	
翌年度繰越収支差額		△ 5,498,927,085	

(参考)

事業活動収入計	1,155,764,027
事業活動支出計	1,332,623,122

※人件費、管理経費には、法人経費が含まれています。